

令和4年度
香川県がん患者ニーズ調査報告書

令和4年10月～令和5年1月実施

令和5年3月

香川県健康福祉部健康福祉総務課



香川県がん征圧イメージキャラクター
「ソウキくん」

はじめに

がんは、昭和 52 年以降今日まで、本県の死亡原因の第 1 位となっています。県内では毎年約 3 千人の方ががんで亡くなり、また、最新のがん統計によると、日本人の約 2 人に 1 人が一生のうちに何らかのがんにかかると推計されているなど、がんは、県民の生命と健康にとって重大な問題となっています。

本県では、平成 30 年度から令和 5 年度までの 6 年間を計画期間とする「第 3 次香川県がん対策推進計画」を策定し、「県民一人ひとりが、がんを知り、お互いに手をたずさえてがんと向かい合う香川の実現」を目指して、がん予防、早期発見・早期治療、がん医療や患者支援など、総合的ながん対策の推進に取り組んでいるところです。

このたび、令和 6 年度から始まる次期香川県がん対策推進計画の策定に向け、「香川県がん患者ニーズ調査」を実施し、がん医療やがん患者の療養生活に係る実態や意見等について調査を行いました。

調査結果を踏まえ、次期計画及び本県における今後のがん対策が、がん患者を含めた県民の視点に立ったものとなるよう課題を整理し、がん対策の一層の推進に活用してまいります。

調査に当たっては、県内 5 つのがん診療連携拠点病院、四国こどもとおとなの医療センターのほか、県内がん患者団体の御協力をいただき、治療を受けておられるがん患者やその御家族の皆様から、貴重な御意見をいただきました。

調査の実施及び回答に御協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

令和 5 年 3 月

香川県健康福祉部健康福祉総務課

調査の概要について

目 的

がん医療やがん患者の療養生活に係る実態や意見等について調査を行い、がん対策を取り巻く状況やがん患者のニーズを把握することにより、次期香川県がん対策推進計画の策定に向けた参考資料を得る。

実施主体

香川県

調査対象

香川県内のがん診療連携拠点病院（香川大学医学部附属病院、香川県立中央病院、高松赤十字病院、香川労災病院、三豊総合病院）及び四国こどもとおとなの医療センターにおいてがんと診断・告知され、治療を開始している外来患者及び入院患者

実施方法

各病院において、調査期間中に外来に受診又は入院している者に対し、外来又は病棟で所定の調査用紙と封筒を配布し、記入済み調査用紙が封入された封筒を回収した。

調査期間

令和4年10月～令和5年1月

調査票配布・回収状況

配布数 800部

回収数 518部（うち同意のあったもの508部）

回収率 64.8%

I 患者について

- ・患者の年齢層は、約4分の1が40～50歳代、約7割が60歳以上
- ・通院時間は、9割弱が1時間未満
- ・家族構成は、配偶者と同居が約7割、ひとり暮らしが約15%

問1. この調査票を記入している方はどなたですか。

患者様ご本人	457	(90.3%)
患者様のご家族	45	(8.9%)
その他	4	(0.8%)

(回答数 506)

問2. 性別をお答えください。

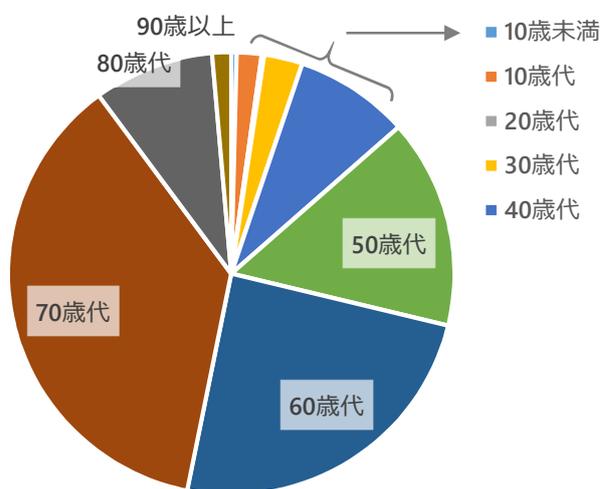
男性	270	(53.6%)
女性	234	(46.4%)

(回答数 504)

問3. 年齢をお答えください。

10歳未満	2	(0.4%)
10歳代	9	(1.8%)
20歳代	1	(0.2%)
30歳代	14	(2.8%)
40歳代	42	(8.3%)
50歳代	77	(15.3%)
60歳代	123	(24.4%)
70歳代	185	(36.7%)
80歳代	44	(8.7%)
90歳以上	7	(1.4%)

(回答数 504)



問4. 現在、入院中か通院中かをお答えください。

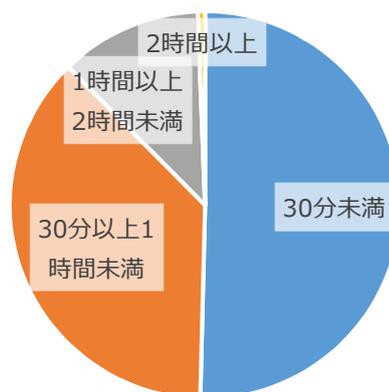
入院中	254	(50.4%)
通院中	250	(49.6%)

(回答数 504)

問5. ご自宅から病院までの片道の所要時間はどのくらいですか。

30分未満	253	(50.4%)
30分以上1時間未満	187	(37.3%)
1時間以上2時間未満	59	(11.8%)
2時間以上	3	(0.6%)

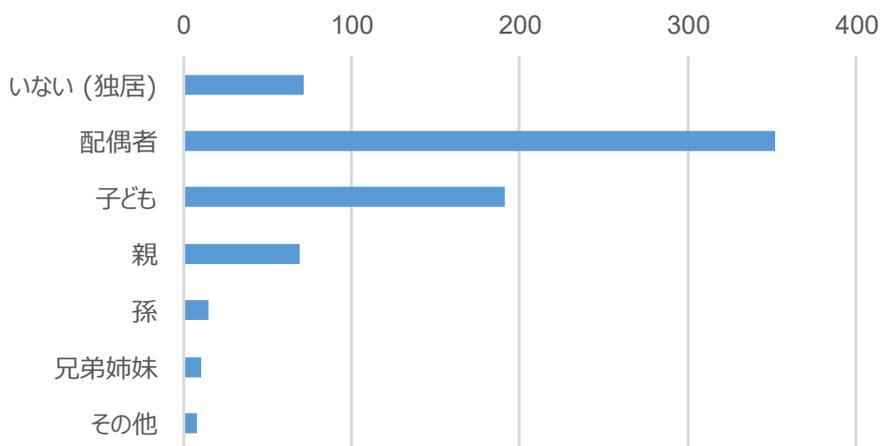
(回答数 502)



問6. ご自宅で同居されている方を教えてください。(当てはまるもの全て)

いない(独居)	72	(14.3%)
配偶者	352	(70.1%)
子ども	191	(38.0%)
親	69	(13.7%)
孫	15	(3.0%)
兄弟姉妹	11	(2.2%)
その他	8	(1.6%)

(複数回答 総数 502)



II がんの診断について

- ・がん診断時にステージ告知を受けた方の割合は、67.2%
- ・本人が家族とともにがん告知を受けた割合は、58.0%
- ・がん告知後に「相談を必要としていた」方のうち、9割弱の方が「相談できた」、1割強の方が「相談できなかった」と回答
- ・相談できた方の相談先は、家族・親戚が85.6%、主治医が56.1%

問7. 最初にごんと告知されたのはいつですか。

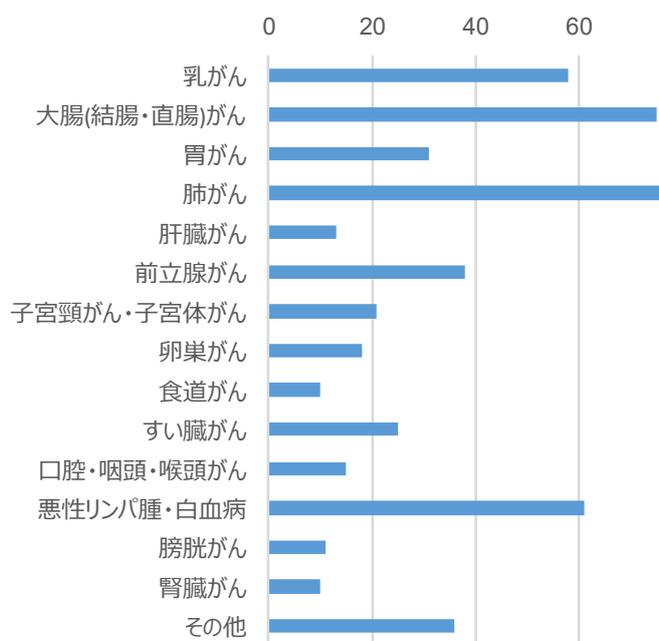
1年以内	258	(51.4%)
1年以上2年未満	73	(14.5%)
2年以上3年未満	28	(5.6%)
3年以上4年未満	24	(4.8%)
4年以上5年未満	20	(4.0%)
5年以上10年未満	55	(11.0%)
10年以上	44	(8.8%)

(回答数 502)

問8. 最初にどの部位の「がん」と診断されましたか。

乳がん	58	(11.6%)
大腸(結腸・直腸)がん	75	(15.0%)
胃がん	31	(6.2%)
肺がん	77	(15.4%)
肝臓がん	13	(2.6%)
前立腺がん	38	(7.6%)
子宮頸がん・子宮体がん	21	(4.2%)
卵巣がん	18	(3.6%)
食道がん	10	(2.0%)
すい臓がん	25	(5.0%)
口腔・咽頭・喉頭がん	15	(3.0%)
悪性リンパ腫・白血病	61	(12.2%)
膀胱がん	11	(2.2%)
腎臓がん	10	(2.0%)
その他	36	(7.2%)

(回答数 499)



その他の内訳…甲状腺がん・舌がん・脳腫瘍・皮膚がん各 3、
骨髄異形成症候群・骨髄腫・胆のうがん各 2 ほか

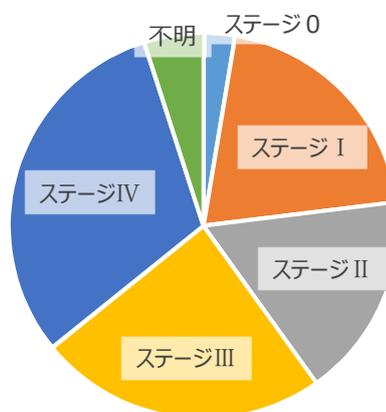
問9. 最初にがんと診断されたとき、がんの進行度（ステージ）を知らされましたか。

知らされた	332	(67.2%)
知らされなかった	101	(20.4%)
わからない	61	(12.3%)

(回答数 494)

ステージ0	8	(2.6%)
ステージI	62	(20.4%)
ステージII	52	(17.1%)
ステージIII	73	(24.0%)
ステージIV	94	(30.9%)
不明	15	(4.9%)

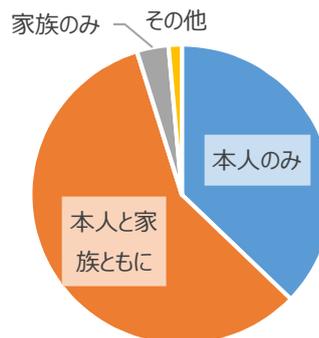
(回答数 304)



問10. 最初のがんの診断・告知の際、医師からどなたに病名を告げられましたか。

本人のみ	186	(37.2%)
本人と家族ともに	290	(58.0%)
家族のみ	17	(3.4%)
その他	7	(1.4%)

(回答数 500)



問11. がんと診断・告知されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか。

相談を必要としなかった	148	(29.7%)
相談が必要だったが、できなかった	39	(7.8%)
相談できた	312	(62.5%)

(回答数 499)

相談できなかった理由

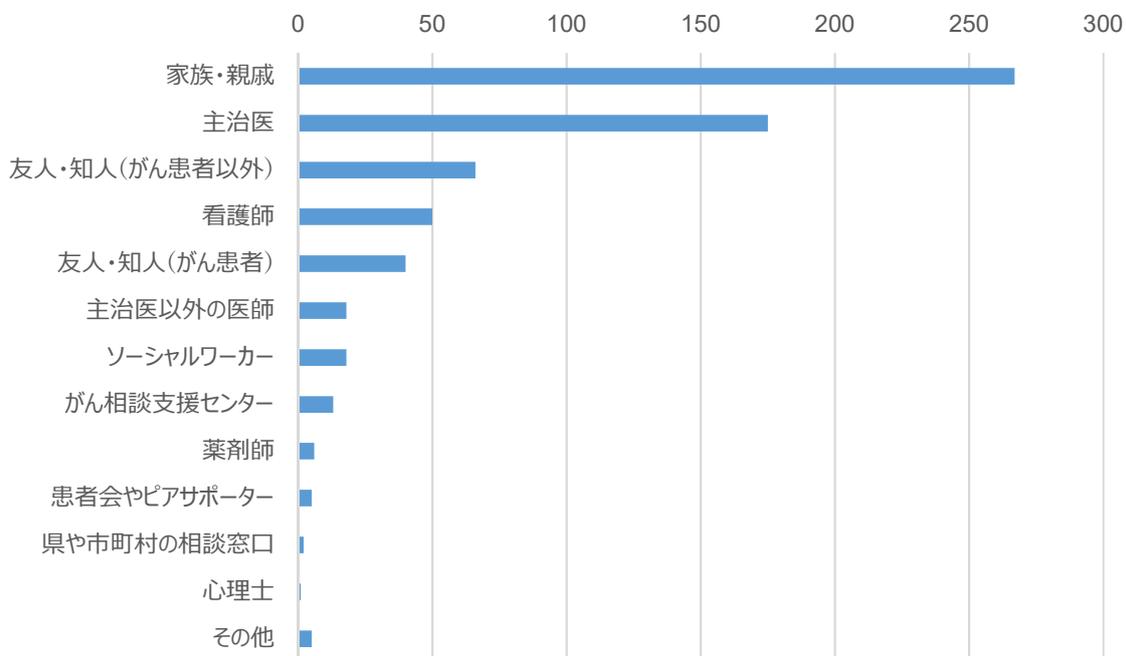
- ・誰に相談してよいか分からなかった。
- ・時間的、精神的に余裕がなかった。
- ・身近に同じがんになった人がいなかった。
- ・心配をかけたくなかった。
- ・コロナ禍であったので面会できなかった。 など

問11-②. 問11で「相談できた」と答えた方にお聞きします。誰に相談しましたか。(当てはまるもの全て)

家族・親戚	267	(85.6%)
主治医	175	(56.1%)
友人・知人(がん患者以外)	66	(21.2%)
看護師	50	(16.0%)
友人・知人(がん患者)	40	(12.8%)
主治医以外の医師	18	(5.8%)
ソーシャルワーカー	18	(5.8%)
がん相談支援センター	13	(4.2%)
薬剤師	6	(1.9%)
患者会やピアサポーター※	5	(1.6%)
県や市町村の相談窓口	2	(0.6%)
心理士	1	(0.3%)
その他	5	(1.6%)

(複数回答 総数 312)

※ピアサポーター：患者・経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援する人をいいます。



Ⅲ がんの治療について

- ・ 診断後に欲しかった情報として多いものは、標準的な治療方法、一般的な治療成績、治療による副作用。一方、約4割が主治医の説明だけで十分と回答
- ・ 情報収集の手段としては、約半数がインターネット、約3割が家族・親戚、2割弱が病院備え付けのパンフレット類を活用
- ・ セカンドオピニオンを受けた方の割合は、10.8%
- ・ 患者会やピアサポートを利用したことがある方の割合は、3.0%
- ・ 告知等の際に配慮を「かなり／ある程度感じられた」方の割合は、78.3%
- ・ 60.1%の方がかかりつけ医がいる、64.1%の方がかかりつけ歯科医師がいる

問12. これまで受けたがん治療についてお答えください。2種類以上のがんについて治療された場合には、直近のものについてお答えください。(当てはまるもの全て)

化学療法（分子標的薬、免疫療法を含む）	305	(62.4%)
手術（内視鏡治療を含む）	295	(60.3%)
放射線治療（陽子線治療、重粒子線治療を含む）	106	(21.7%)
ホルモン療法	29	(5.9%)
緩和ケア※	16	(3.3%)
造血細胞移植（同種移植、自家移植を含む）	9	(1.8%)
その他	12	(2.5%)
わからない	14	(2.9%)

(複数回答 総数 489)

※緩和ケア：病気の進行具合にかかわらず、患者やその家族が抱える様々なつらさを和らげ、療養生活の質を維持向上するための治療やケア、援助などをいいます。

問13. がんと診断されて以降、どのような情報が欲しかったですか。(当てはまるもの全て)

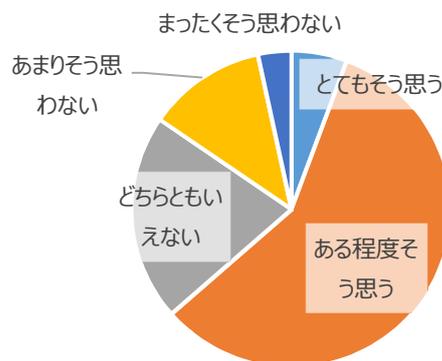
主治医の説明だけで十分だったので、追加で情報は欲しいと思わなかった	210	(42.5%)
自分のがんの標準的な治療の方法（手術、化学療法など）	178	(36.0%)
自分のがんの一般的な治療成績（5年生存率など）	168	(34.0%)
治療による副作用（脱毛、吐き気、生殖機能の低下など）	122	(24.7%)
経済的負担がどれくらいになるか	113	(22.9%)
免疫療法、ゲノム医療、陽子線・重粒子線治療など先進医療が受けられるか	87	(17.6%)
仕事や学業との両立支援について	49	(9.9%)
近くの病院の治療実績（手術件数、患者数、専門医数など）	37	(7.5%)
介護や育児との両立支援について	11	(2.2%)
その他	10	(2.0%)

(複数回答 総数 494)

問13-②. 問13で「主治医の説明だけで十分だったので、追加で情報は欲しいと思わなかった」以外を選択した方にお聞きします。十分な情報を得ることができたと思いますか。

とてもそう思う	15	(5.6%)
ある程度そう思う	154	(57.9%)
どちらともいえない	56	(21.1%)
あまりそう思わない	32	(12.0%)
まったくそう思わない	9	(3.4%)

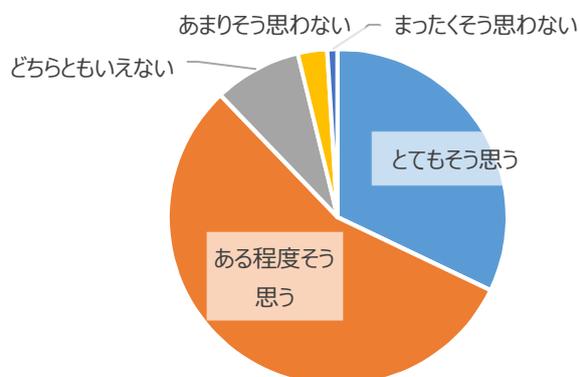
(回答数 266)



問14. がんと診断されてから「がんの治療」を決めるまでの間に、主治医から治療に関する十分な情報を得ることができたと思いますか。

とてもそう思う	162	(32.1%)
ある程度そう思う	281	(55.8%)
どちらともいえない	42	(8.3%)
あまりそう思わない	14	(2.8%)
まったくそう思わない	5	(1.0%)

(回答数 504)



問15. セカンドオピニオン※を受けたことがありますか。

ある	54	(10.8%)
ない	447	(89.2%)

(回答数 501)

※セカンドオピニオン：診断治療に関して、別の医師の意見を聞くことをいいます。

問15-②. 問15で「ない」と答えた方にお聞きします。受けなかった理由を教えてください。

主治医から話はあったが、主治医の説明だけで納得できた	258	(61.7%)
主治医から話はあったが、経済的な負担が気になった	13	(3.1%)
主治医から話はあったが、主治医との関係が悪くなると心配した	5	(1.2%)
主治医から話はあったが、その他の理由で受けなかった	10	(2.4%)
主治医から話がなかったのに、知っていたが、言い出せなかった	46	(11.0%)
主治医から話がなかったのに、知らなかった	41	(9.8%)
その他	45	(10.8%)

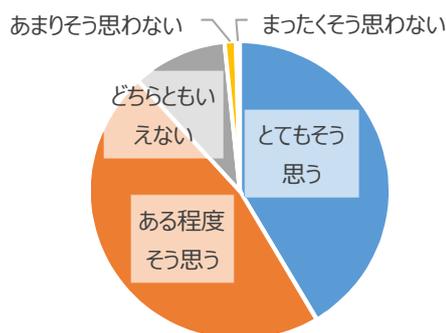
(回答数 418)

「その他」のうち、「主治医から話はなく、知っていても、必要としていなかった」との趣旨の回答が19、「時間がなかった」との趣旨の回答が6。

問16. これまでに受けた治療について、納得していますか。

とてもそう思う	204	(41.5%)
ある程度そう思う	230	(46.7%)
どちらともいえない	50	(10.2%)
あまりそう思わない	6	(1.2%)
まったくそう思わない	2	(0.4%)

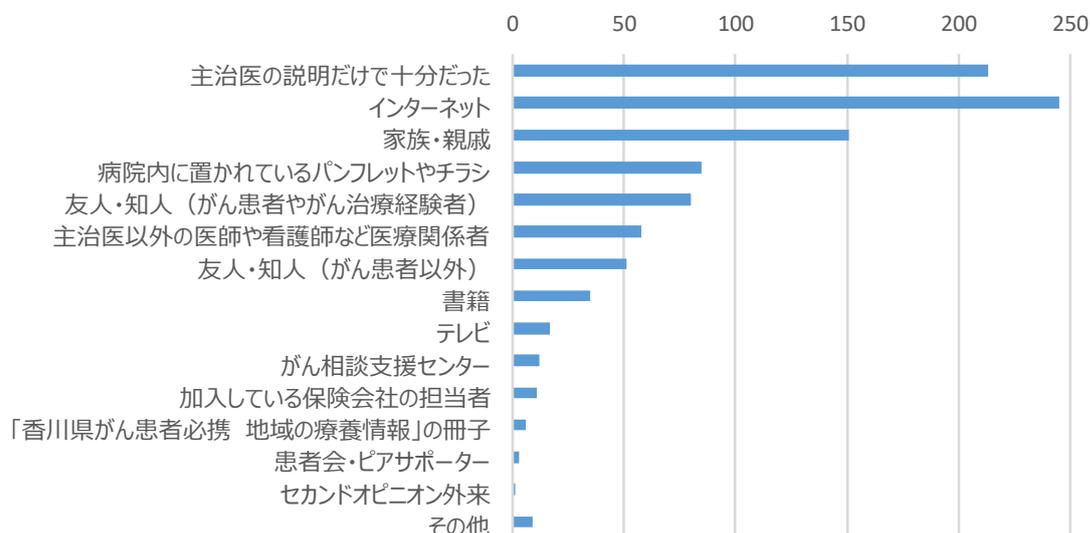
(回答数 492)



問17. がんと診断されて以降、どこから情報を集めましたか。(最も当てはまるもの上位3つ)

主治医の説明だけで十分だった	213	(44.8%)
インターネット	245	(51.6%)
家族・親戚	151	(31.8%)
病院内に置かれているパンフレットやチラシ	85	(17.9%)
友人・知人 (がん患者やがん治療経験者)	80	(16.8%)
主治医以外の医師や看護師など医療関係者	58	(12.2%)
友人・知人 (がん患者以外)	51	(10.7%)
書籍	35	(7.4%)
テレビ	17	(3.6%)
がん相談支援センター	12	(2.5%)
加入している保険会社の担当者	11	(2.3%)
「香川県がん患者必携 地域の療養情報」の冊子	6	(1.3%)
患者会・ピアサポーター	3	(0.6%)
セカンドオピニオン外来	1	(0.2%)
その他	9	(1.9%)

(複数回答 総数 475)



問18. これまでに、患者会やピアサポート※を利用したことがありますか。

患者会やピアサポートについて知らない	338	(68.4%)
患者会やピアサポートについて知っているが、利用したことはない	141	(28.5%)
利用したことがある	15	(3.0%)

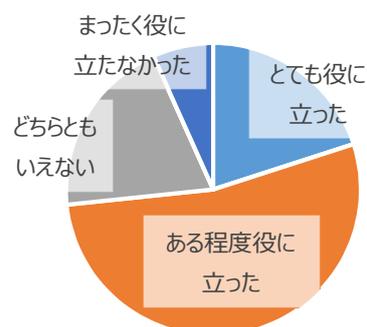
(回答数 494)

※ピアサポート：患者・経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援することをいいます。

問18-②. 問18で「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。患者会やピアサポートを利用してどの程度役に立ったと思いますか。

とても役に立った	3	(20.0%)
ある程度役に立った	8	(53.3%)
どちらともいえない	3	(20.0%)
あまり役に立たなかった	0	(0.0%)
まったく役に立たなかった	1	(6.7%)

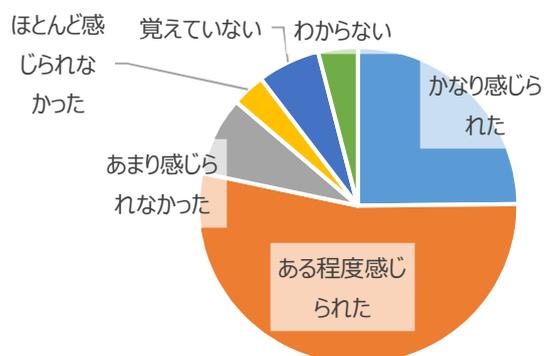
(回答数 15)



問19. 病名告知や病状・治療方針の説明の際、主治医や医療スタッフから、精神的なショックをなるべく和らげるような、患者の立場に立った配慮を感じられましたか。

かなり感じられた	118	(24.8%)
ある程度感じられた	254	(53.5%)
あまり感じられなかった	38	(8.0%)
ほとんど感じられなかった	16	(3.4%)
覚えていない	30	(6.3%)
わからない	19	(4.0%)

(回答数 475)



配慮としてよかった点

- ・優しい言葉に救われた。「心配事は何でも言ってください」と声を掛けられた。
- ・「ここまでで分からないことはないですか」と何回も聞いてくれた。質問に対して、丁寧に説明してくれた。
- ・家族と一緒に説明が聞けた。同席していた家族に対しても声掛けをしてくれた。
- ・冷静に淡々と説明があり、落ち着いた。はっきりと伝えてくれた。表情などに深刻さを出さなくてくれた。
- ・パンフレットや画像を使って説明してくれた。治療の効果などについて具体的に説明された。

配慮が足りないと感じた点

- ・こちらが質問なり意見を言ったら会話で止めようとした。
- ・良性か悪性か不明の段階で、悪性と決めつけた説明をされた。

問20. この用紙を受け取った病院以外で「かかりつけ医」はいますか。

いない	199 (39.9%)
いる	300 (60.1%)

(回答数 499)

問20-②. 問20で「いる」と答えた方にお聞きします。かかりつけ医に、がんの病状や治療について話すことはありますか。

話すことはない	77 (26.2%)
病状や治療の報告のみ	176 (59.9%)
症状やがん治療の副作用など困ったことに対応してもらっている	26 (8.8%)
病院の担当医と連携して、がん治療自体をかかりつけ医で受けている	15 (5.1%)

(回答数 294)

問21. この用紙を受け取った病院以外で「かかりつけ歯科医師」はいますか。

いない	180 (35.9%)
いる	321 (64.1%)

(回答数 501)

問21-②. 問21で「いる」と答えた方にお聞きします。かかりつけ歯科医師に、がんの病状や治療について話すことはありますか。

話すことはない	180 (57.7%)
病状や治療の報告のみ	94 (30.1%)
症状やがん治療の副作用など困ったことに対応してもらっている	24 (7.7%)
病院の担当医と連携して、がん治療をするために必要な歯科治療をかかりつけ歯科医師から受けている	14 (4.5%)

(回答数 312)

IV がん治療の諸問題について

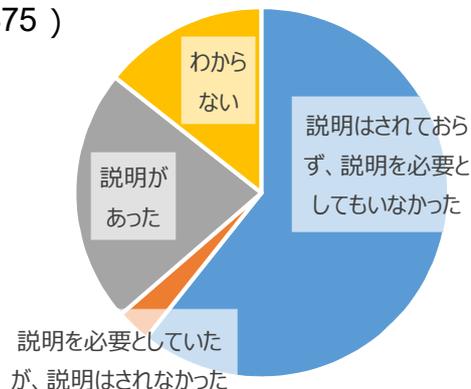
- ・妊孕性温存について、説明を受けた方の割合は 22.1%。治療費助成が必要と思う（とても／ある程度）方の割合は、79.8%
- ・外見変貌を補完する補整具の購入費用助成が必要と思う（とても／ある程度）方の割合は、90.8%
- ・がん相談支援センターを知っている方の割合は 58.3%。利用した方のうち、役に立ったと思う（とても／ある程度）方の割合は、82.1%
- ・緩和ケア部門に相談したことがある方の割合は 10.2%。利用した方のうち、対応に満足した（とても／ある程度）方の割合は、85.4%

問22. 最初のがん治療が開始される前に医師からその治療による生殖機能への影響（妊よう性※消失の可能性など）について説明を受けましたか。

説明はされておらず、説明を必要としてもいなかった	288	(60.6%)
説明を必要としていたが、説明はされなかった	14	(2.9%)
説明があった	105	(22.1%)
わからない	68	(14.3%)

(回答数 475)

※妊よう性：女性にも男性にも関わることで「妊娠するための力」のことをいいます。



問22-②. 問22で「説明があった」と答えた方にお聞きします。それはどのような説明でしたか。

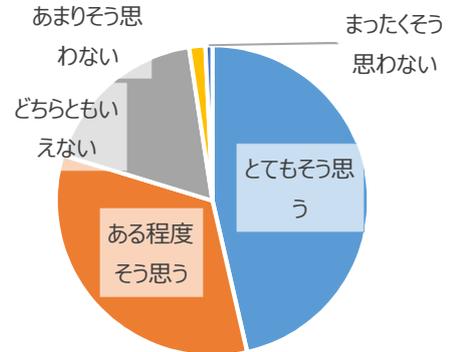
生殖機能への影響はない、という説明を受けた	11	(11.5%)
生殖機能への影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった	31	(32.3%)
生殖機能への影響があるが、予防・温存の方法は存在しないと説明があった	7	(7.3%)
生殖機能への影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった	17	(17.7%)
生殖機能への影響がある、という説明はあったが、治療上の緊急性の観点から、治療を優先するべきと説明があった	30	(31.3%)

(回答数 96)

問23. 香川県ではがん等の治療の影響により生殖機能が低下するまたは失うおそれがあると診断された43歳未満の患者の方の妊よう性温存の治療費を一部助成する事業を行っています。この制度は妊よう性温存治療を受ける上で必要だと思いますか。

とてもそう思う	195	(46.4%)
ある程度そう思う	140	(33.3%)
どちらともいえない	75	(17.9%)
あまりそう思わない	7	(1.7%)
まったくそう思わない	3	(0.7%)

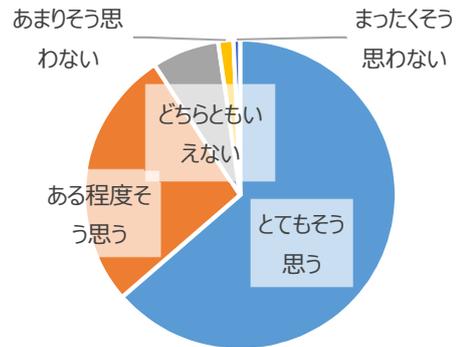
(回答数 420)



問24. 香川県では他の公的支援制度がない 20 歳から 39 歳のがん患者の方に対し、治療による脱毛や乳房切除などの外見変貌を補完する補整具の購入費用を一部助成する事業を開始しました。この制度は患者の心理的負担の軽減や、治療と社会生活の両立を図る上で必要だと思いますか。

とてもそう思う	283	(63.6%)
ある程度そう思う	121	(27.2%)
どちらともいえない	31	(7.0%)
あまりそう思わない	7	(1.6%)
まったくそう思わない	3	(0.7%)

(回答数 445)



問25. がんの治療のために使ったお金は、多い月でどの程度ですか。

医療費

1万円未満	6	(1.7%)
1万円以上2万円未満	24	(6.9%)
2万円以上3万円未満	18	(5.2%)
3万円以上4万円未満	20	(5.8%)
4万円以上5万円未満	8	(2.3%)
5万円以上6万円未満	34	(9.8%)
6万円以上11万円未満	132	(38.0%)
11万円以上16万円未満	36	(10.4%)
16万円以上21万円未満	31	(8.9%)
21万円以上26万円未満	5	(1.4%)
26万円以上31万円未満	13	(3.7%)
31万円以上	20	(5.8%)

(回答数 347)

医療費以外

1万円未満	41	(15.2%)
1万円以上2万円未満	93	(34.6%)
2万円以上3万円未満	53	(19.7%)
3万円以上4万円未満	36	(13.4%)
4万円以上5万円未満	2	(0.7%)
5万円以上6万円未満	25	(9.3%)
6万円以上11万円未満	12	(4.5%)
11万円以上16万円未満	1	(0.4%)
16万円以上21万円未満	4	(1.5%)
21万円以上26万円未満	0	(0.0%)
26万円以上31万円未満	1	(0.4%)
31万円以上	1	(0.4%)

(回答数 269)

問26. 治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがありますか。

ない	452	(96.0%)
ある	19	(4.0%)

(回答数 471)

問26-②. 問26で「ある」と答えた方にお聞きします。治療費用負担の問題が無ければ受けた可能性のある治療は次のどれですか。

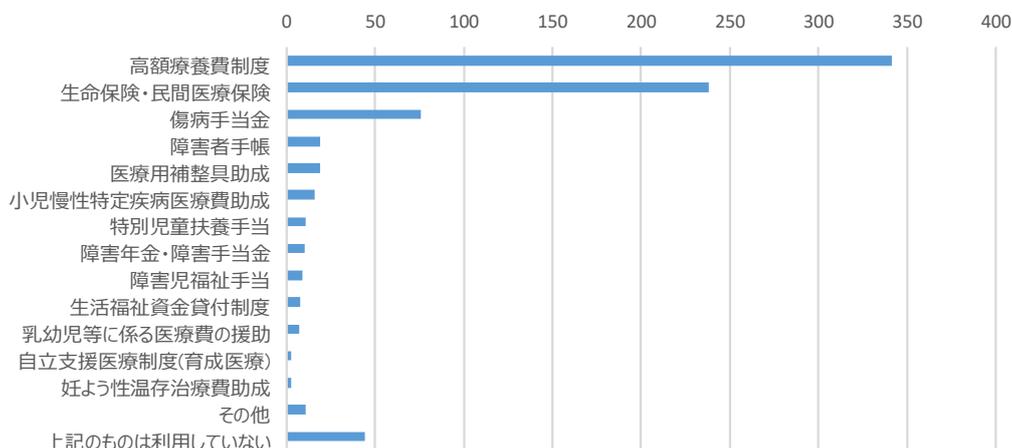
保険診療範囲外の治療（先進医療を含む）	8	(42.1%)
保険診療範囲内での治療	8	(42.1%)
わからない	3	(15.8%)

(回答数 19)

問27. 治療や療養生活の経済的負担を軽減するために利用したものについて、お答えください。
(当てはまるもの全て)

高額療養費制度	341	(72.7%)
生命保険・民間医療保険	238	(50.7%)
傷病手当金	76	(16.2%)
障害者手帳	19	(4.1%)
医療用補整具助成	19	(4.1%)
小児慢性特定疾病医療費助成（各市町実施）	16	(3.4%)
特別児童扶養手当	11	(2.3%)
障害年金・障害手当金	10	(2.1%)
障害児福祉手当	9	(1.9%)
生活福祉資金貸付制度	8	(1.7%)
乳幼児等に係る医療費の援助	7	(1.5%)
自立支援医療制度（育成医療）	3	(0.6%)
妊よう性温存治療費助成	3	(0.6%)
その他	11	(2.3%)
上記のものは利用していない	44	(9.4%)

(複数回答 総数 469)



問28. がん相談支援センター※を利用したことがありますか。

がん相談支援センターを知らない	208	(41.7%)
がん相談支援センターを知っているが、利用したことはない	250	(50.1%)
利用したことがある	41	(8.2%)

(回答数 499)

※がん相談支援センター：全国の小児がん拠点病院、がん診療連携拠点病院などに設置されている病気や療養生活などに関する相談窓口です。

問28-②. 問28で「知っているが、利用したことはない」と答えた方にお聞きします。利用しなかった理由を教えてください。(当てはまるもの全て)

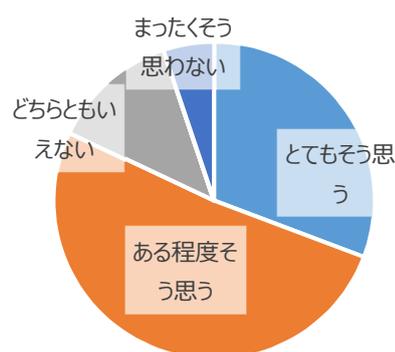
必要としていたときには知らなかった	29	(11.9%)
相談したいことはなかった	141	(58.0%)
何を相談する場なのかわからなかった	59	(24.3%)
プライバシーの観点から行きづらかった	17	(7.0%)
相談を受け止めてもらえるか自信がなかった	16	(6.6%)
他の患者の方の目が気になった	4	(1.6%)
その他	17	(7.0%)

(複数回答 総数 243)

問28-③. 問28で「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。がん相談支援センターを利用して役に立ったと思いますか。

とてもそう思う	12	(30.8%)
ある程度そう思う	20	(51.3%)
どちらともいえない	5	(12.8%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)
まったくそう思わない	2	(5.1%)

(回答数 39)



問29. がん治療中の様々な困ったことについて、専門的な緩和ケア部門（緩和ケア外来や緩和ケアチーム）に相談したことはありますか。

ない	439	(89.8%)
ある	50	(10.2%)

(回答数 489)

問29-②. 問29で「ない」と答えた方にお聞きします。相談しなかった理由を教えてください。

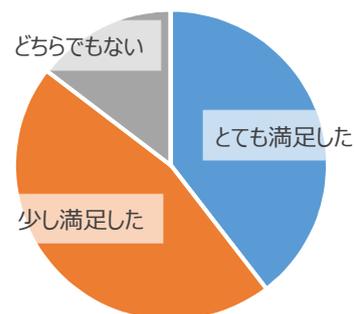
主治医やその他の担当医療者の対応だけで十分だった	323	(76.9%)
そのような部門を知らなかった	86	(20.5%)
相談したかったができなかった	11	(2.6%)

(回答数 420)

問29-③. 問29で「ある」と答えた方にお聞きします。満足のいく対応でしたか。

とても満足した	19	(39.6%)
少し満足した	22	(45.8%)
どちらでもない	7	(14.6%)
少し不満だった	0	(0.0%)
とても不満だった	0	(0.0%)

(回答数 48)



そのように感じた理由

- ・親身になって話を聞いてくれた。
- ・気持ちのケアや食事がとれない時のサポートをしてくれた。
- ・薬で痛みのコントロールができた。
- ・相談しても変わらなかった。

問30. 療養生活を自宅で過ごすためには、どのような条件が必要だと思いますか。(最も当てはまるもの上位3つ)

家族に負担があまりかからないこと	265	(57.5%)
介護してくれる家族がいること	264	(57.3%)
家族に理解があること	197	(42.7%)
急変時の医療体制があること	136	(29.5%)
家族に病気や介護の知識があること	93	(20.2%)
家族の介護疲れなどの際に一時的に病院に入院できること	78	(16.9%)
自宅に往診してくれる医師がいること	63	(13.7%)
訪問看護など自宅に看護師等が来て看護が受けられること	46	(10.0%)
在宅療養に関する相談先があること	45	(9.8%)
自宅が介護できる住居構造になっていること	32	(6.9%)
信頼できるケアマネジャーがいること	29	(6.3%)
訪問介護など自宅に介護員等が来て介護が受けられること	15	(3.3%)
訪問リハビリなど自宅に理学療法士・作業療法士等が来てリハビリが受けられること	11	(2.4%)
車いすやベッドなどの福祉用具がそろっていること	7	(1.5%)
その他	6	(1.3%)

(複数回答 総数 461)

問31. がんと確定診断されたとき、就学または就労していましたか。

就学していた	8	(1.7%)
就労していた	245	(51.3%)
就学も就労もしていなかった	212	(44.4%)
わからない	13	(2.7%)

(回答数 478)

- ⇒ 「就学していた」と回答した方は、問32～問36に回答。
「就労していた」と回答した方は、問37～42-③に回答。

V がん治療と就学について

- ・半数以上が、治療開始前に教育支援について病院から説明を受けている。
- ・回答者全員が、治療と教育の両立について配慮を感じたと（とても／ある程度）思っている。
- ・回答者のうち半数弱が治療前と同じ学校への通学を続け、半数強が院内学級等で授業を受けている。

問32. がんと確定診断された当時の就学状況についてお答えください。

小学校	4	(57.1%)
中学校	2	(28.6%)
高等学校	1	(14.3%)
特別支援学校	0	(0.0%)
大学（短期大学を含む）	0	(0.0%)

(回答数 7)

問33. 治療を始める前に教育の支援等について、病院の医療スタッフから説明がありましたか。

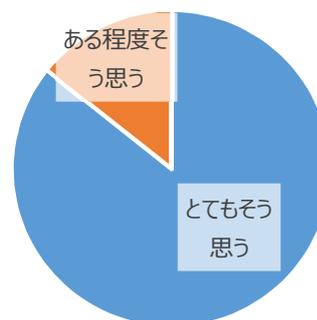
説明はなく、説明を必要としてもいなかった	0	(0.0%)
説明を必要としていたが、説明はなかった	1	(14.3%)
説明があった	4	(57.1%)
わからない	2	(28.6%)

(回答数 7)

問34. 学校や教育上の関係者と医療者が連携して、治療と教育を両方続けられるような配慮を感じられましたか。

とてもそう思う	6 (85.7%)
ある程度そう思う	1 (14.3%)
どちらともいえない	0 (0.0%)
あまりそう思わない	0 (0.0%)
まったくそう思わない	0 (0.0%)

(回答数 7)



問35. 診断後の就学状況はどうでしたか。

治療前と同じ学校に通学している	3 (42.9%)
治療のため、院内学級のある学校、特別支援学校等に転校した	4 (57.1%)
就学猶予、就学免除または休学中である	0 (0.0%)

(回答数 7)

問35-②. 問35で「治療前と同じ学校に通学している」以外を選択した方にお聞きします。治療中に利用したものについてお答えください。(当てはまるもの全て)

病院内等に設置された特別支援学級(病室への訪問を含む)で授業を受けた	4 (100.0%)
ICT 機器などを活用し、遠隔で授業を受けた	1 (25.0%)
原籍校の教員が病院や自宅等に来て授業を受けた	0 (0.0%)
学習支援員やボランティアによる支援等で対面での学習支援を受けた	0 (0.0%)
原籍校で録画された授業の視聴や原籍校からの課題や補習を受けた	0 (0.0%)
家庭教師などを病院へ派遣し、学習した	0 (0.0%)
利用したものはなし	0 (0.0%)

(複数回答 総数 4)

問36. 治療と教育を両立するために必要性を感じた(感じている)ものについて、自由に記入してください。

- ・一人で先生と対面や自主学習よりも、院内学級やオンラインで仲間と勉強する方が、頑張ろうという気持ちがあく。
- ・オンラインの授業はリアルタイムでなければ出席にならず、後で見直すこともできない。治療中や体調不良時にリアルタイムの出席は無理なので、後で見直せる配信があればよい。

VI がん治療と就労について

- ・ 治療時に勤務先の支援を受けられた方の割合は 56.4% (手厚い／それなりに)
- ・ 治療と仕事の両立に多く必要とされているものは、時間(半日)単位の休暇制度、試し出勤、短時間勤務制度
- ・ 約半数の方が、同じ職場で仕事を継続 (内容や量を調整した場合を含む)
- ・ 休業した方の約 3 分の 2 が、少なくとも一度は復職している。

問37. がんと確定診断された当時の就業形態についてお答えください。

会社員	104	(43.2%)
パート・アルバイト	53	(22.0%)
個人事業主(農業・漁業従事含む)	42	(17.4%)
公務員	12	(5.0%)
会社経営者・役員	11	(4.6%)
派遣社員	7	(2.9%)
その他	12	(5.0%)

(回答数 241)

問38. 治療を始める前に就労の継続について、病院の医療スタッフから説明がありましたか。

説明はなく、説明を必要としてもいなかった	106	(44.9%)
説明を必要としていたが、説明はなかった	15	(6.4%)
説明があった	91	(38.6%)
わからない	24	(10.2%)

(回答数 236)

問39. 治療を継続するに当たって勤務先の支援を受けられましたか。

手厚い支援を受けた	48	(21.1%)
それなりの支援を受けた	80	(35.2%)
ほとんど支援は受けられなかった	43	(18.9%)
支援どころかマイナスになった (退職を思わせるような話や待遇の変更など)	9	(4.0%)
勤務先にはがんと診断されたことを話さなかった	16	(7.0%)
その他	31	(13.7%)

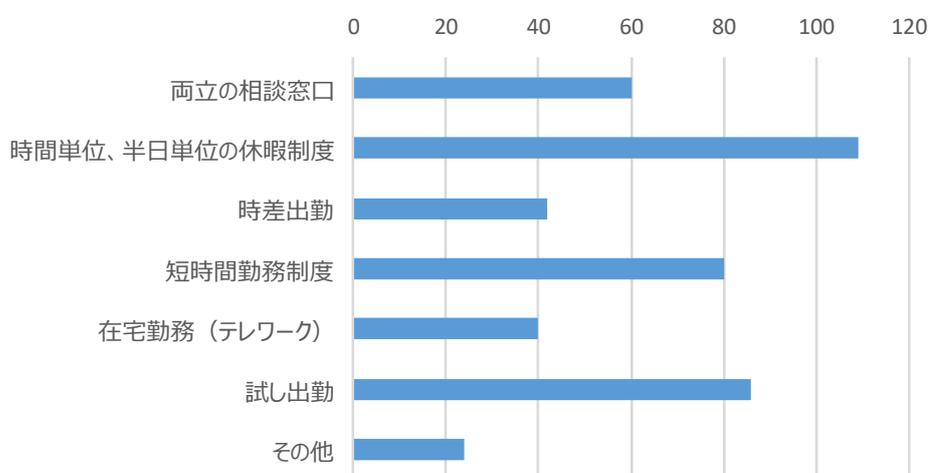
(回答数 227)

「その他」のうち、「自営業」との趣旨の回答が 16。状況としては、「従業員が留守中の仕事を引き受けてくれた」、「廃業した」などがあった。

問40. 治療と仕事を両立するために必要性を感じた（感じている）ものについて、お答えください。（当てはまるもの全て）

両立の相談窓口	60	(29.3%)
時間単位、半日単位の休暇制度(定期的・不定期に取得する休暇)	109	(53.2%)
時差出勤(長さは所定の労働時間で出勤をずらす)	42	(20.5%)
短時間勤務制度(所定労働時間を一定期間、短縮する制度)	80	(39.0%)
在宅勤務（テレワーク）	40	(19.5%)
試し出勤(復職時に一定期間、時間や日数を短縮した勤務を行うこと)	86	(42.0%)
その他	24	(11.7%)

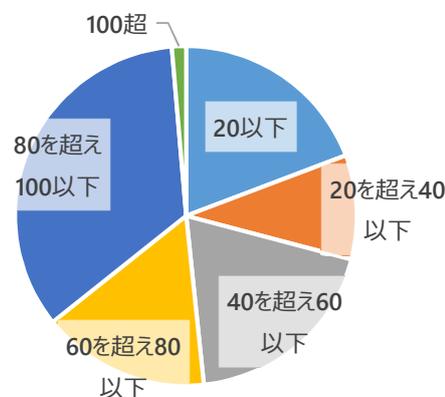
(複数回答 総数 205)



問41. 治療開始前と開始後1年後の月収がどのように変化したか、教えてください。（治療開始前を100として、増えた場合は100より大きい数字、減った場合は100より小さい数字）

20以下	29	(19.2%)
20を超え40以下	15	(9.9%)
40を超え60以下	29	(19.2%)
60を超え80以下	24	(15.9%)
80を超え100以下	52	(34.4%)
100超	2	(1.3%)

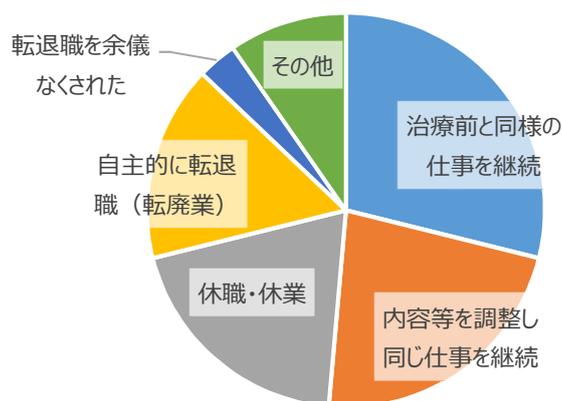
(回答数 151)



問42. がんと診断された後の仕事の状況についてお答えください。

治療前と同様の仕事を継続した	63	(28.9%)
内容や量を調整して同じ職場で仕事を継続した	49	(22.5%)
休職・休業はしたが、転職・退職または転業・廃業はしなかった	43	(19.7%)
自主的に転職・退職または転業・廃業した	35	(16.1%)
勤務先から転職・退職を余儀なくされた	7	(3.2%)
その他	21	(9.6%)

(回答数 218)



問42-②. 問42で「休職・休業はしたが、転職・退職または転業・廃業はしなかった」と答えた方にお聞きします。その後、どのようにされましたか。

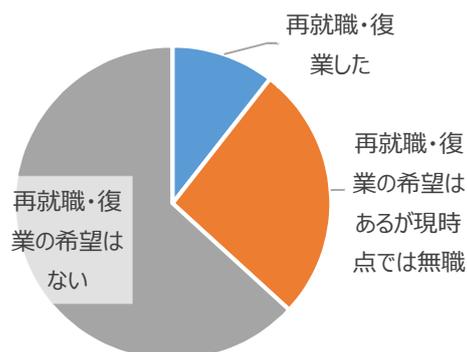
(少なくとも一度は) 復職した	27	(67.5%)
(一度も) 復職していない	13	(32.5%)

(回答数 40)

問42-③. 問42で「自主的に転職・退職または転業・廃業した」または「勤務先から転職・退職を余儀なくされた」と答えた方にお聞きします。その後、どのようにされましたか。

再就職・復業した	4	(10.5%)
再就職・復業の希望はあるが現時点では無職	10	(26.3%)
再就職・復業の希望はない	24	(63.2%)

(回答数 38)



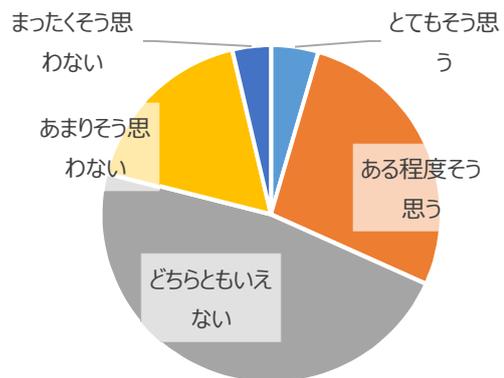
Ⅶ 療養生活全般について

- ・患者・家族への支援等の状況については、「どちらともいえない」と思う方が約半数
- ・がん対策で力を入れるべきこととして多いのは、がんの早期発見、医療体制の充実、がんの発症予防、相談支援体制の充実

問43. がん患者やその家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所は十分あると思いますか。

とてもそう思う	21	(4.5%)
ある程度そう思う	127	(27.3%)
どちらともいえない	220	(47.2%)
あまりそう思わない	81	(17.4%)
まったくそう思わない	17	(3.6%)

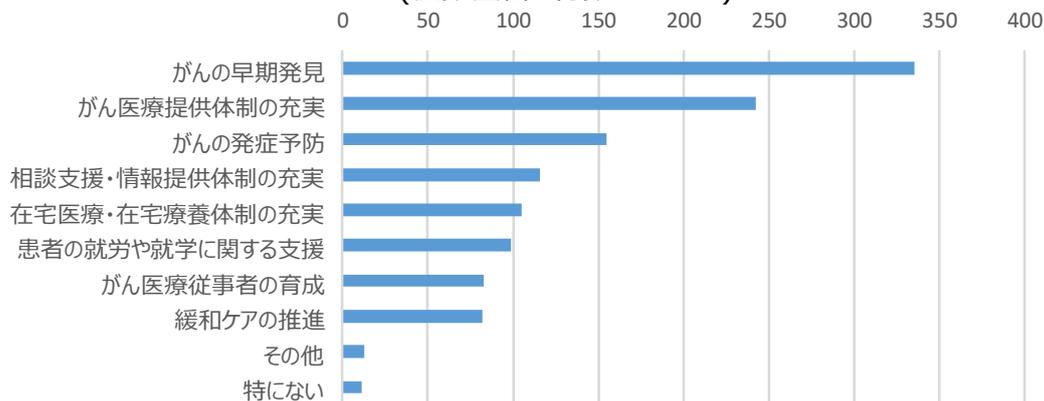
(回答数 466)



問44. がん対策について、県はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(最も当てはまるもの上位3つ)

がんの早期発見（がん検診の受診率向上など）	335	(73.5%)
がん医療提供体制の充実（医療機関の整備など）	242	(53.1%)
がんの発症予防（生活習慣の改善など）	155	(34.0%)
相談支援・情報提供体制の充実	116	(25.4%)
在宅医療・在宅療養体制の充実	105	(23.0%)
患者の就労や就学に関する支援	99	(21.7%)
がん医療従事者の育成	83	(18.2%)
緩和ケアの推進	82	(18.0%)
その他	13	(2.9%)
特にない	11	(2.4%)

(複数回答 総数 456)



問45. 新型コロナウイルス感染症の流行によって、療養生活にどのような影響がありましたか。

(当てはまるもの全て)

感染対策のため普段の行動が制限された	326	(70.0%)
入院中の面会や、通院時の付き添いが制限された	311	(66.7%)
感染への不安などから、気分的な落ち込みが続いた	118	(25.3%)
通院を控えた	26	(5.6%)
病院の都合で、手術や治療が延期になった	20	(4.3%)
身近な人が感染し、必要なサポートが受けられなかった	12	(2.6%)
自身が感染し、必要な治療などが受けられなかった	8	(1.7%)
その他	22	(4.7%)
特になし	44	(9.4%)

(複数回答 総数 466)

問46. 療養生活を続ける中で、よかった・悪かったと感じた出来事、各質問へのご意見、行政に対するご要望、その他気づかれた点などをご自由に記入してください。

- ・早期発見、早期治療が大切だと思った。
- ・行政による経済的な支援（治療費、交通費、医療用補整具の購入費など）をもっと充実させてほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、面会が制限されたり、退院が遅れたりしてつらかった。
- ・精神的に不安なときに、相談できる場所が分からなかったが、相談支援センターがあることを知り、不安が和らいだ。相談できる場所などの情報提供を充実させてほしい。
- ・セカンドオピニオン制度を利用して、患者の希望を聞いたり、説明してくれる医師に巡り合えた。
- ・治療内容等についてしっかりと説明してほしい。（治療後に妊よう性消失の可能性があるとまでは説明されなかった、緩和ケアは重篤な人が受けるものと考えていたので緩和ケアの話をされ不安が募った、など。）
- ・病診連携、在宅医療との連携を充実させてほしい。担当部署間で意思疎通を図ってほしい。
- ・「チーム医療」で、各専門職の方から説明を受けたり、相談できる仕組みの大切さを感じている。

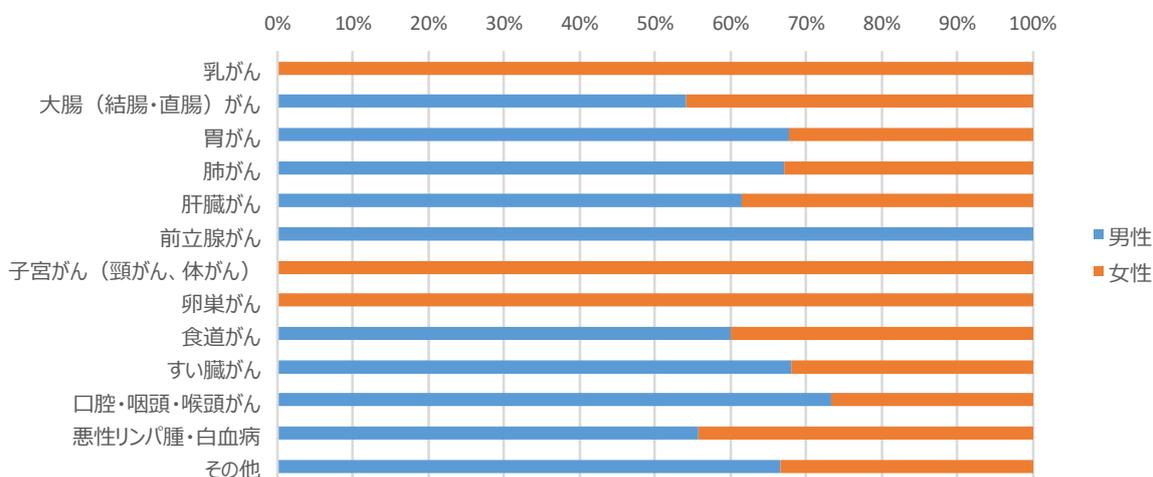
このほか、医療従事者に対する感謝の言葉を多数いただきました。

Ⅷ クロス集計

- ・告知時のがんのステージ：
男性は進行度が高くなるにつれ多くなる。女性はⅠ、Ⅲ、Ⅳが大体同じくらい。
- ・情報収集手段：
若い世代は、インターネットや主治医以外の医療関係者の利用が多い。
高齢の世代は、書籍・テレビの利用が多く、追加の情報収集をしない方も多い。
家族・親戚や友人・知人から情報収集する方は、世代を問わず多い。
- ・就労継続状況：ステージⅠ～Ⅲでは約5～7割、Ⅳでは約3割が、同じ仕事を継続している。（内容や量を調整している場合を含む。）

① がんの部位（問8）と性別（問2）

項目	男性	女性	無回答	合計
乳がん	0	58	0	58
大腸（結腸・直腸）がん	40	34	1	75
胃がん	21	10	0	31
肺がん	51	25	1	77
肝臓がん	8	5	0	13
前立腺がん	38	0	0	38
子宮がん（頸がん、体がん）	0	21	0	21
卵巣がん	0	18	0	18
食道がん	6	4	0	10
すい臓がん	17	8	0	25
口腔・咽頭・喉頭がん	11	4	0	15
悪性リンパ腫・白血病	34	27	0	61
その他	38	19	0	57
合計	264	233	2	499

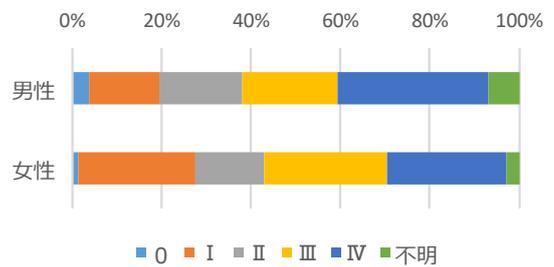


② がんの部位（問8）と年代（問3）

項目	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上	無回答	合計
乳がん	0	0	0	5	12	14	13	10	4	0	0	58
大腸がん	0	0	1	1	5	10	17	34	6	0	1	75
胃がん	0	0	0	0	2	3	9	12	4	1	0	31
肺がん	0	0	0	1	3	10	22	33	5	2	1	77
肝臓がん	0	0	0	1	1	3	3	3	2	0	0	13
前立腺がん	0	0	0	0	1	1	8	23	5	0	0	38
子宮がん	0	0	0	1	2	8	5	5	0	0	0	21
卵巣がん	0	0	0	0	2	7	4	4	1	0	0	18
食道がん	0	0	0	0	0	1	5	3	1	0	0	10
すい臓がん	0	0	0	0	0	4	7	13	1	0	0	25
口腔・咽頭・喉頭がん	0	0	0	0	1	1	7	3	3	0	0	15
悪性リンパ腫・白血病	2	5	0	3	7	6	14	16	7	1	0	61
その他	0	4	0	2	6	9	8	21	4	3	0	57
合計	2	9	1	14	42	77	122	180	43	7	2	499

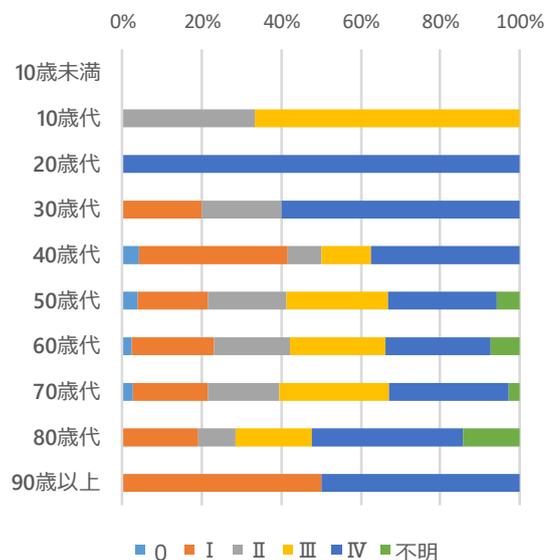
③ がんのステージ（問9）と性別（問2）

項目	0	I	II	III	IV	不明	合計
男性	6	25	30	34	54	11	160
女性	2	37	22	39	38	4	142
無回答	0	0	0	0	2	0	2
合計	8	62	52	73	94	15	304



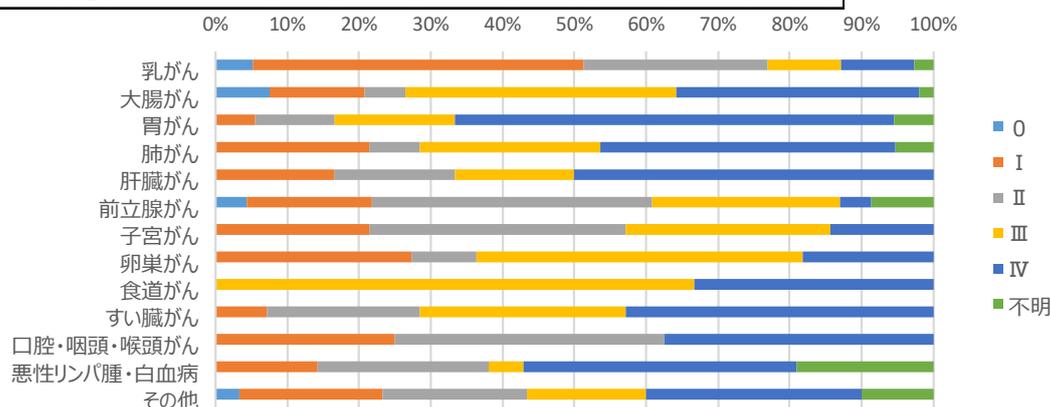
④ がんのステージ（問9）と年代（問3）

項目	0	I	II	III	IV	不明	合計
10歳未満	0	0	0	0	0	0	0
10歳代	0	0	1	2	0	0	3
20歳代	0	0	0	0	1	0	1
30歳代	0	1	1	0	3	0	5
40歳代	1	9	2	3	9	0	24
50歳代	2	9	10	13	14	3	51
60歳代	2	17	16	20	22	6	83
70歳代	3	21	20	31	34	3	112
80歳代	0	4	2	4	8	3	21
90歳以上	0	1	0	0	1	0	2
無回答	0	0	0	0	2	0	2
合計	8	62	52	73	94	15	304



⑤ がんの部位（問8）とがんのステージ（問9）

項目	0	I	II	III	IV	不明	無回答	合計
乳がん	2	18	10	4	4	1	2	41
大腸がん	4	7	3	20	18	1	2	55
胃がん	0	1	2	3	11	1	4	22
肺がん	0	12	4	14	23	3	4	60
肝臓がん	0	1	1	1	3	0	2	8
前立腺がん	1	4	9	6	1	2	2	25
子宮がん	0	3	5	4	2	0	0	14
卵巣がん	0	3	1	5	2	0	0	11
食道がん	0	0	0	6	3	0	0	9
すい臓がん	0	1	3	4	6	0	1	15
口腔・咽頭・喉頭がん	0	2	3	0	3	0	0	8
悪性リンパ腫・白血病	0	3	5	1	8	4	6	27
その他	1	6	6	5	9	3	3	33
合計	8	61	52	73	93	15	26	328



⑥ がんの部位（問8）と治療内容（問12）

項目	手術	化学療法	放射線治療	造血細胞移植	ホルモン療法	緩和ケア	その他	わからない	無回答
乳がん	48	29	15	0	15	3	1	0	1
大腸がん	52	43	7	0	2	1	2	0	8
胃がん	18	17	1	0	0	1	1	2	1
肺がん	32	51	27	1	0	3	0	1	1
肝臓がん	5	5	0	0	0	2	1	2	0
前立腺がん	21	8	7	0	7	0	1	2	2
子宮がん	16	18	10	0	0	0	0	0	0
卵巣がん	16	16	2	0	1	1	0	0	1
食道がん	4	8	4	0	0	0	0	0	0
すい臓がん	11	21	1	1	1	0	1	1	1
口腔・咽頭・喉頭がん	11	4	7	0	0	0	0	1	1
悪性リンパ腫・白血病	12	50	7	6	1	2	1	1	2
その他	45	31	17	1	1	2	4	1	0

備考 治療内容は複数回答。手術は内視鏡治療を含む。化学療法は分子標的薬、免疫療法を含む。放射線治療は陽子線治療、重粒子線治療を含む。造血細胞移植は同種移植、自家移植を含む。

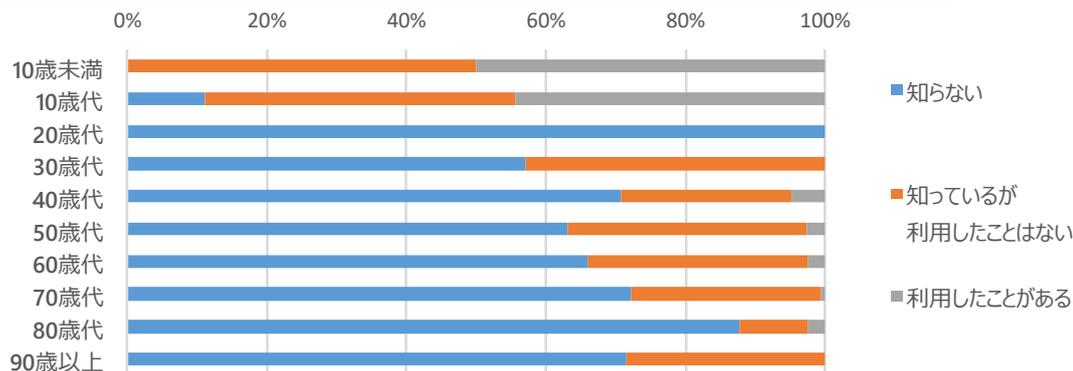
⑦ 情報収集手段（問17）と年代（問3）

項目	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上	無回答
追加で情報収集はしなかった	0	3	0	3	11	20	49	96	25	3	3
インターネット	1	9	1	11	32	48	68	59	10	4	2
家族・親戚	0	5	0	3	8	20	40	55	14	5	1
友人・知人（がん患者以外）	0	1	0	2	6	12	14	15	1	0	0
友人・知人（がん患者・経験者）	1	0	1	0	11	15	19	25	7	0	1
患者会・ピアサポーター	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
主治医以外の医療関係者	1	2	0	3	8	11	9	17	6	0	1
病院内のパンフレットやチラシ	0	0	0	4	5	13	18	38	7	0	0
がん患者必携 地域の療養情報	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0
がん相談支援センター	0	0	0	1	1	3	4	3	0	0	0
加入保険会社の担当者	0	0	0	0	1	1	6	1	1	0	1
書籍	0	0	0	0	2	8	8	14	1	1	1
テレビ	0	0	0	0	0	3	2	10	2	0	0
セカンドオピニオン外来	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	1	2	5	0	1	0

備考 情報収集手段は複数回答

⑧ 患者会等の利用状況（問18）と年代（問3）

項目	知らない	知っているが 利用したことはない	利用したことがある	合計
10歳未満	0	1	1	2
10歳代	1	4	4	9
20歳代	1	0	0	1
30歳代	8	6	0	14
40歳代	29	10	2	41
50歳代	48	26	2	76
60歳代	80	38	3	121
70歳代	128	48	1	177
80歳代	36	4	1	41
90歳以上	5	2	0	7
無回答	2	2	1	5
合計	338	141	15	494



⑨ 妊孕性に関する説明状況（問22）と年代（問3）

項目	説明はされず、説明を必要としていたが、説明もいかなかった	説明を必要としていたが、説明はされなかった	説明があった	わからない	合計
10歳未満	2	0	0	0	2
10歳代	0	0	4	5	9
20歳代	1	0	0	0	1
30歳代	3	1	8	2	14
40歳代	22	1	11	8	42
50歳以上	257	12	81	53	403
無回答	3	0	1	0	4
合計	288	14	105	68	475

⑩ 就学・就労状況（問31）とがんのステージ（問9）

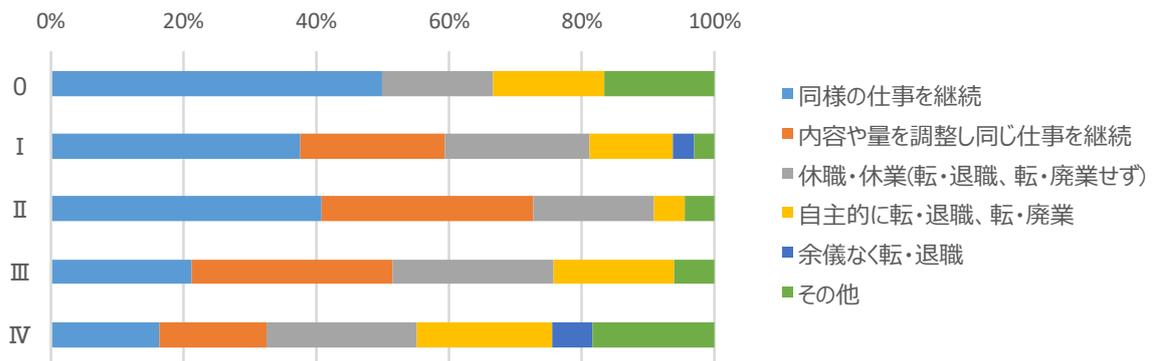
項目	0	I	II	III	IV	不明	無回答	合計
就学していた	0	1	1	1	0	0	1	4
就労していた	6	35	25	37	50	6	9	168
就学も就労もしていなかった	2	23	24	24	36	9	12	130
わからない	0	1	1	2	0	0	1	5
合計	8	60	51	64	86	15	23	307

⑪ 就労継続状況（問42）とがんの部位（問8）

項目	同様の仕事を継続	内容や量を調整し同じ仕事を継続	休職・休業(転・退職、転・廃業せず)	自主的に転・退職、転・廃業	余儀なく転・退職	その他	合計
乳がん	10	12	5	4	1	1	33
大腸がん	12	4	4	6	2	3	31
胃がん	5	4	1	2	0	0	12
肺がん	9	8	6	5	3	2	33
肝臓がん	3	1	1	0	0	0	5
前立腺がん	4	2	0	0	0	1	7
子宮がん	2	2	6	0	0	0	10
卵巣がん	3	1	4	4	0	0	12
食道がん	1	3	0	2	0	1	7
すい臓がん	1	3	3	4	0	1	12
口腔・咽頭・喉頭がん	2	1	1	0	0	1	5
悪性リンパ腫・白血病	1	2	4	4	1	9	21
その他	9	6	7	3	0	2	27
無回答	1	0	1	1	0	0	3
合計	63	49	43	35	7	21	218

⑫ 就労継続状況（問42）とがんのステージ（問9）

項目	0	I	II	III	IV	不明	無回答	合計
同様の仕事を継続	3	12	9	7	8	3	2	44
内容や量を調整し同じ仕事を継続	0	7	7	10	8	1	4	37
休職・休業(転・退職、転・廃業せず)	1	7	4	8	11	2	0	33
自主的に転・退職、転・廃業	1	4	1	6	10	0	0	22
余儀なく転・退職	0	1	0	0	3	0	1	5
その他	1	1	1	2	9	0	2	16
合計	6	32	22	33	49	6	9	157



⑬ 就労継続状況（問42）と就業形態（問37）

項目	公務員	会社員	会社経営・役員	派遣社員	パート・アルバイト	個人事業主	その他	無回答	合計
同様の仕事を継続	6	26	4	0	11	10	5	1	63
内容や量を調整し同じ仕事を継続	4	25	2	3	7	5	3	0	49
休職・休業(転・退職、転・廃業せず)	2	22	2	0	8	8	0	1	43
自主的に転・退職、転・廃業	0	8	0	3	15	7	2	0	35
余儀なく転・退職	0	3	0	1	3	0	0	0	7
その他	0	9	1	0	3	8	0	0	21
合計	12	93	9	7	47	38	10	2	218



調査に御協力いただきました皆様、ありがとうございました。
いただいた御意見を、今後のがん対策に活かしてまいります。